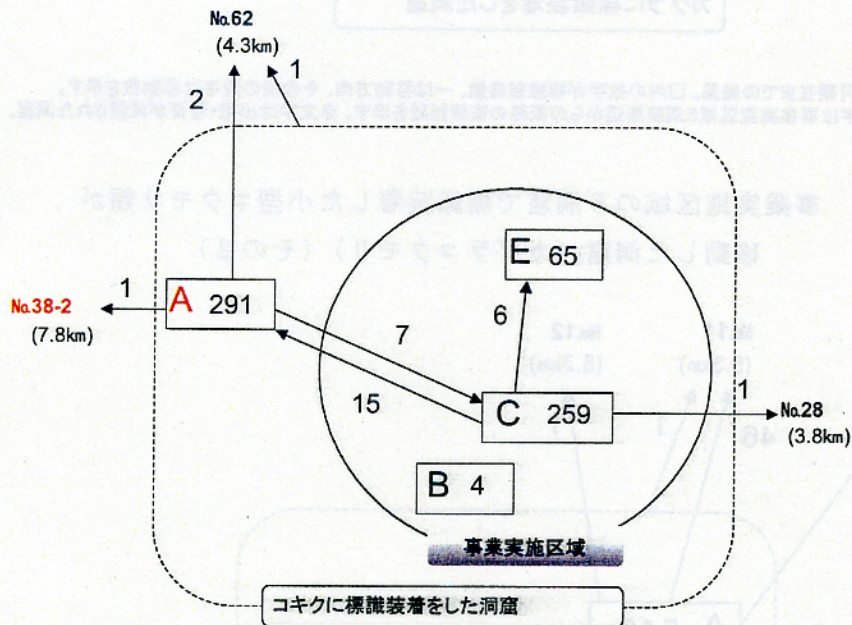


B、C及びE洞窟を利用する小型コウモリ類の移動先は1か所あるいは複数の場所であると考えられる。小型コウモリ類にとって洞窟間の移動のし易さは距離と地形が関係すると考えられる。ヤエヤマコキクガシラコウモリにとっては飛翔空間が樹林内であるため、樹林の存在もまた重要である。洞窟間の距離が短く、かつ標高差が小さく、洞窟間に樹林の連続性が保たれている場所としてはA洞窟があり、まず最初にA洞窟へ移動する個体が多いと考えられる。また、D洞窟については、標識装着作業を行っていないこと、これまでにA、B、C及びE洞窟で標識装着された個体が確認されていないが、ヤエヤマコキクガシラコウモリの生息が確認されていることから、A洞窟と同様に移動先として考えられる。

移動先における他の生物との関係についても、移動個体による個体数の変動は、現在の個体数変動幅の範囲内であると考えられ、小型コウモリ類の餌となる昆虫類等にとっても変動は小さいものと考えられる。



注: 平成16年6月現在までの結果。□内の数字が標識装着数、→は移動方向、その横の数字は移動数を示す。
 ()内の数字は事業実施区域5洞窟周辺からの概略の直線距離を示す。赤字は出産・哺育が確認された洞窟。

図-6.12.1.2(21) 事業実施区域の5洞窟で標識装着した小型コウモリ類が移動した洞窟 (ヤエヤマコキクガシラコウモリ) (その1)